



7月17日は「理学療法の日」 コロナ患者の回復にも尽力

理学療法士



「笑顔をあきらめない」
一般社団法人 岡山県理学療法士会 國安 勝司 会長

新型コロナウイルスはいまだ終息しておらず、昨年の理学療法の日(あじさつ)文を書いている時とさほど変化がないのが非常に残念です。しかし、Withコロナの時代としてさまざまな場面で工夫を行い、今までの固定観念にとらわれずにできることも増えてきたと思います。

1966(昭和41)年、理学療法士110人が日本理学療法士協会を結成した7月17日にちなんで制定しました。広く国民への理学療法の啓発と、理学療法

理学療法士の職域は時代とともに徐々に広がってまいりました。今回の記事に載せておられる方も、新型コロナウイルス感染症患者に対する理学療法

「笑顔をあきらめない」。これが日々理学療法士のキャッチコピーです。ワクチン接種や治療薬の開発で新型コロナウイルス感染症が終息し、皆さまが笑顔になれることを願っています。

1966(昭和41)年、理学療法士110人が日本理学療法士協会を結成した7月17日にちなんで制定しました。広く国民への理学療法の啓発と、理学療法

理学療法士の職域は時代とともに徐々に広がってまいりました。今回の記事に載せておられる方も、新型コロナウイルス感染症患者に対する理学療法

「笑顔をあきらめない」。これが日々理学療法士のキャッチコピーです。ワクチン接種や治療薬の開発で新型コロナウイルス感染症が終息し、皆さまが笑顔になれることを願っています。

理学療法士の活躍の場は、スポーツや大規模災害時の被災者支援など多岐に広がっています。近年注目されている「スポーツ理学療法」は、けがの予防(傷害予防)やけがをした選手の復帰、競技力向上に貢献。また最近ではフィットネス施設に所属し健康増進へのアドバイスを行うほか、学校などに出向き運動の苦手な児童、生徒らに体の動かし方を指導する理学療法士もいます。

QOLを守る砦に

7月17日は「理学療法の日」。国家資格の理学療法士は医学的リハビリテーションの専門家として、高齢者や手術後の運動機能回復に尽力している。新型コロナウイルスの収束が見通せない中、入院患者らの復帰も後押し。医療の最前線でコロナ患者と向き合う理学療法士の取り組みを紹介する。



肺炎を患った女性患者に、呼吸機能回復のための理学療法を行う秋山さん(右)

岡山大学病院(岡山市北区鹿田町)の総合リハビリテーション部。7月上旬の午後、パーテーションで仕切られた一角に、理学療法士・秋山明和さん(38)の姿があった。簡易ベッドには肺や食道を手術した60歳の女性。横向きに寝かせ肩甲骨や肋骨周辺の可動域運動をしたり、ベッド脇に座らせ肩を抱えたり腕を持ち上げたり。目標は筋肉や関節など胸部の柔軟性を取り戻し、呼吸を楽にすることだ。「胸の手術や肺炎などを患った患者さんの理学療法は、呼吸を改善することから始めます。新型コロナウイルスの患者さんも基本は同じです」と説明する。岡山県内で初の新型コロナウイルス感染者が判明した昨年3月以降、同病院にも多くの感染者が入院。人工呼吸器や人工心臓装置ECMO(エクモ)を使用しなければならぬ重症者もいたという。秋山さんもスタッフの一人として新型コロナウイルス患者に対応。理学療法の開始が遅れた分だけ回復にも時間がかかるため、患者さんが集中治療室(ICU)にいるときから医師や看護師らと情報を共有し、呼吸や運動機能の改善などに取り組んだ。

重症者らに対応 呼吸、運動機能を改善

理学療法は血圧や脈拍といったデータ、息苦しさなど患者さんの訴えを総合判断しながら実施。ただ通常の肺炎と比べ、「新型コロナウイルス感染による肺炎は、例えば血中酸素飽和度が急激に悪化するなど体調変化が激しい。患者さんの状態を見極めながらの業務で気を抜くことはできません」と秋山さん。さらに防護具装着はもちろん、咳をする患者さんの正面に立たないなど徹底した感染防止対策も求められ、スタッフの緊張感も増している。岡山県内のコロナ感染者も減り、同病院も現在は小康状態。しかし、いつ次の流行が訪れるか予断を許さず、警戒を緩めることはできないという。「理学療法により新型コロナウイルス患者の早期回復を促すことは、病床逼迫の改善にもつながる。患者さんのQOL(生活・生命の質)を守る砦の一つとして、新型コロナウイルスに對峙した経験を生かし、対策を続けていきたい」と話している。

スポーツ、災害避難所… 広がる活躍の場



理学療法士は健康増進や競技力向上にも貢献している

理学療法士の活躍の場は、スポーツや大規模災害時の被災者支援など多岐に広がっています。近年注目されている「スポーツ理学療法」は、けがの予防(傷害予防)やけがをした選手の復帰、競技力向上に貢献。また最近ではフィットネス施設に所属し健康増進へのアドバイスを行うほか、学校などに出向き運動の苦手な児童、生徒らに体の動かし方を指導する理学療法士もいます。災害時に設けられる避難所では、高齢者のエコノミッククラス症候群や身体機能の低下を予防するため、簡単な体操などを指導。出入り口の段差解消や手すり設置など、理学療法士の視点で避難所運営をサポートしている。

岡山県内の理学療法士養成校(順不同)

- 4年制大学**
 - 川崎医療福祉大学(倉敷市松島)
 - 吉備国際大学(高梁市伊賀町)
- 4年制専門職大学**
 - 岡山医療専門職大学(岡山市北区大供)
- 4年制専門学校**
 - 玉野総合医療専門学校(玉野市築港)
 - 朝日医療大学校(岡山市北区幸運町)
- 3年制専門学校**
 - 川崎リハビリテーション学院(倉敷市松島)
 - 岡山医療技術専門学校(岡山市北区大供、2022年3月閉校予定)
 - 倉敷リハビリテーション学院(倉敷市幸町)